

令和 6 年度学長裁量経費採択課題（詳細内容）

教職実践力向上重点研究費

公募分野	代表者		テーマ
1	保健体育講座	村松 愛梨奈	「ジェンダーと多様性」ブックプロジェクト～包括的性教育の環境整備と実践～
プロジェクト概要（１）		子どもや若者の性と生殖に関する健康と権利（SHRH）を守るためには、包括的性教育の充実が重要である。包括的性教育は、単に二次性徴による身体の変化や生殖の仕組みのみに限定されず、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等、ウェルビーイングなど、ヒトが健康かつ安全に生活するために必要な知識を身につける人権教育でもある。2023年度からは、全国の小中高および特別支援学校で「生命（いのち）の安全教育」が開始され、子どもが性に関する正しい知識を持ち、SOSを出せるような知識の獲得を目指す教育環境の構築が進み始めている。 このような情勢の中、「ジェンダーと多様性」の理解促進および包括的性教育の推進を目指し、昨年度から学系を超えた研究チームを構築している。インターネットやSNSなど、多くの情報が溢れる現代では、子どもが「性」に関して「信頼性が高く、客観的な情報」を自ら判断して入手することは難しい面もあり、学校として授業や図書・教材などを通して、性に関する正しい情報を提供できる環境を整備することが重要である。 そのため、昨年度は「ジェンダーと多様性」に関する最新及び重要な図書・教材を選定したブックリストを作成し、附属学校園の関連部門と連携して選定した図書等を配架・設置し、「ジェンダーと多様性」に関して、幼児、児童・生徒、大学生が学び考え、経験できる環境整備を行った。附属学校園では、授業での図書活用など「ジェンダーと多様性」に関する学びを促す活動が実施されている。	

プロジェクト概要（２）	本年度は、研究チームとしてそれぞれの専門分野を活かし、 ① 継続的に図書・教材の整備を進めるとともに、 ② これらの図書・教材の利活用状況調査と情報共有 ③ 図書や教材を活用した「ミニ講義」「ユースクリニック」を実施する。 ①に関しては、チーム学校としての教育活動を担う「専門職」や「教員」を目指す学生の学びに繋がる関連図書や教材の配架・設置を継続し、附属学校園との連携により附属学校園の教育環境の整備も継続する。 ②に関しては、昨年度より実施している①「図書・教材の整備」の効果検証として、利活用状況を調査することで、附属学校間での利活用の情報共有とともに、利活用に関わる課題やその改善点の検討を行う。 ③に関しては、大学生や附属高校生を対象として、「AUEユースクリニック」と称して、包括的性教育に関わる図書や教材に触れる機会の確保やそれらに関する座談会、本学専門家と外部専門家（産婦人科医）によるミニ講義や「からだやこころ、性に関わる心配事」の相談が可能な「ユースクリニック」を大学内で展開する。
研究の目的	インターネットやSNSなど、多くの情報が溢れる現代では、子どもが「性」に関して「信頼性が高く、客観的な情報」を自ら判断して入手することは難しい面もあり、学校として授業や図書・教材などを通して、ジェンダーや多様性、性に関する正しい情報を提供できる環境を整備することが重要である。そこで、本研究では、昨年度から継続して、本学附属学校園および大学において、ジェンダーや多様性、性に関連する図書や教材を充実により、教育環境の整備を目指した。また、昨年度の環境整備の効果検証として、利活用状況を調査し、利活用における課題や改善点を明らかにすることを目的とした。また、本年度は図書や教材を活用したミニ講義を含む「ユースクリニック」を実施し、包括的性教育に関わる図書や教材に触れる機会の確保し、本学専門家によるミニ講義や「からだやこころ、性に関わる心配事」の相談が可能なブースを外部専門家の協力により実施し、教職や教職を支える専門職を目指す本学学生が、ジェンダーや多様性、性に関して正しい情報に触れる機会の確保を目的とした。

研究の方法	本研究の方法は以下の通りである。 1. 大学および附属学校園用の図書・教材の選定と配架・設置 昨年度に作成した「ジェンダーと多様性」に関するブックリストを附属学校園に配布し、各学校園の要望により図書等を配架・設置した。また、大学図書館も同様に関連図書を配架・設置した。 2. 令和5年度における図書・教材の利活用状況の調査 各附属学校園の教員を対象に、オンラインアンケート調査を依頼し回答を得た。 3. 図書・教材を活用した「ユースクリニック」の運営および参加者の学びに関する調査 附属高校および大学にてユースクリニックを実施した。大学では、ユースクリニックに参加した高校生・教職員・学生を対象に参加者アンケートを依頼した。なお、保健体育専修の学生については、ユースクリニックを通した学びの内容についても調査を依頼し、回答を得た。
研究の成果	本研究では「ジェンダーと多様性」「包括的性教育」に関わる最新及び重要な図書を図書館等に配架・設置することにより、大学教育および附属学校園における教育の質を向上させる一助とすることができたと考える。また、利活用調査の結果により、道徳や保健などの授業での図書活用や、身近な学級文庫に配架による活用、図書館では生徒による紹介文を添えたコーナー展示など、児童生徒が図書を手に取りやすい工夫がなされていた。一方で、図書に限定されず、児童生徒はもちろん、教員がジェンダーや多様性について学べる研修会などの要望もみられ、多様性に関わる環境づくりは、図書をはじめとして研修などの様々なアプローチ法も考慮して進める必要性が示された。 また、大学では「ユースクリニックで多様性を考える～みんなが生きやすくなるために～」をテーマとして、関連図書や生理用品の展示、婦人科医への相談コーナー、日替わりのミニ講義を行い、結果として、将来的に学校現場に関わる学生たちが様々な視点で多様性を考え、さらに本テーマを教育に携わるうえで今後考え続けるべき課題として認識し直すなどの学びの成果がみられた。なお、上記の成果は健康教育に関連する専門誌に投稿予定である。